

⑮主要地方道富山立山公園線 富立大橋 4車線化事業

受賞機関 富山県 富山土木センター
富山県 富山土木センター 立山土木事務所

キーワード 地域交通の円滑化

全建賞審査委員会の評価ポイント

交通円滑化を図る富立大橋の4車線化事業。BIM/CIMによる3DモデルやAR技術を活用して工事の効率化・安全性向上を図るとともに、WEBで動画を公表して県民に情報を発信し、土木事業のPRやイメージアップに努めた点が評価された。

1. はじめに

主要地方道富山立山公園線は、富山市中心市街地を起点とし、中新川郡立山町の市街地を経て、立山黒部アルペンルートに至る、延長約65kmの重要な幹線道路である。このうち、富立大橋を含む1.8kmの区間は、常願寺川を跨ぐ橋梁の渋滞緩和、新たな広域ネットワークの形成を目的として、平成17年3月にI期線（暫定2車線）の供用を開始した。しかしながら、沿線では大型商業施設や企業の進出が相次ぎ、交通量は年々増加し混雑していたことから、地域全体における交通の円滑化を図ることを目的として、平成27年度から富立大橋の4車線化を進めてきた。そしてこのたびII期線が完成し、令和6年3月24日に供用を開始した。

2. 事業の概要

本路線では富山市中心市街地から順次4車線化整備を進めてきており、当該事業は、延長1.8km（橋梁区間0.9km）の暫定2車線区間を4車線化するものである。常願寺川左岸側（富山市藤木（南）交差点～藤木高架橋）を富山土木センター、常願寺川に架かる富立大橋及び常願寺川右岸側（利田高架橋～立山町利田曾我交差点）を立山土木事務所がそれぞれ担当し、事業推進を図ってきた。

なお、工事期間中、DXとわかりやすい広報への取組を行った。関係機関との協議や地元説明会等で、CIMと撮影した写真を組み合わせた「施工ステップ図」を作成することにより、専門知識がなくても施工手順や完成形がイメージできるようになり、理解しやすい情報の提供、より正確なイメージの共有に役立った。また、AR技術を使って工事の進捗動画や画像を映し出す「見える化」により現場内の情報共有が図られ、安全性の向上に繋げることができた。さらに、事業を広くPRするため、事業内容や上部工架設工事の紹介動画を富山県公式チャンネル（YouTube）へ投稿し公開している。



施工ステップ図による「見える化」

3. 事業の成果

このたびのII期線の完成により、富山市中心市街地から当該区間までの一連区間が4車線で供用することとなり、富立大橋の上下流に架かる2橋（大日橋、常盤橋）からの交通シフトも含め、地域全体における交通の円滑化が図られる。

なお、事業紹介動画の再生回数は合わせて5万回に達しており、土木現場の魅力向上を図るとともに、建設業の担い手確保につながるものと考えている。



富立大橋より立山連峰を望む

4. おわりに

本路線は北陸自動車道立山ICと富山市中心市街地とを結び、沿線の産業・経済活動を支える幹線道路であることから、当該区間の4車線化により企業誘致や商業施設の立地促進が図られ、雇用の拡大や豊かで活力ある地域の創出に寄与するものと期待される。

賛助会員 川田工業(株)、川田建設(株)、大日本ダイヤコンサルタント(株)、(株)林土木